



子供達の様子



市場でのスイカ売

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 43 号 (H27.6.22)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



アフリカ

ザンビア



はじめに 平成 27 年も 6 月下旬を過ぎ、早いものでもう一年の半分が過ぎようとしているのですね。皆様、有意義な日々をお過ごしでしょうか。

ザンビアではこれから冬に向かうのですが、高地であることもあり時に気温が下がり寒いときもあるようで、山元先生もフリースを着られているとメールがありました。さまざまですね。

経過報告 (27 年 6 月以降)

- ・ ORMZ の主たる活動である巡回診療の許可期限の更新が必要となり、ザンビア現地に NGO 法人を設置することとし、その事務手続きを進めています。
- ・ また山元先生の労働ビザが 7 月で切れるため、NGO 登録の手続き後、すぐにビザの取得の手続きをしないといけないこともあり、専門の方に手続きをお願いすることにしました。

ザンビア活動報告 1 (山元香代子先生から)

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。こちらは水が出なくて困っています。昼前から一滴も出ないこともあれば、昼間は少しずつ出ている、夜は水圧が低いために温水器が働かず、お湯が全く出ない状態です。朝早くは何とかお湯が出ていたのですが、今朝は全く出ませんでした。2 カ月近くこのような状態で慣れてしまいましたが、巡回診療から夜遅く埃だらけで帰宅した時は少々うらめしいです。水道局にもお願いに行ったのですが、まだ改善はみられません。今週の巡回診療の報告をします。

6 月 3 日ムワンタヤ

- ・ 患者数 138 名 マラリア 20 名 上気道炎 (かぜ) 47 名 結膜炎 25 名 皮膚疾患 14 名 他
- ・ メイズ (主食のとうもろこし) の収穫で忙しいせい患者数はあまり多くありませんでした。マラリア患者数は横ばいです。以前からムワンタヤはルアノと比べて、あまりマラリアの多い地域ではありませんでした。おそらく低地や小川が少なく、水たまりができていくのだと考えていました。



同行医学生診察風景

・一人の女の子がやや意識がもうろうとした状態で連れてこられ、マラリア検査陽性、抗マラリア薬が飲めるかどうか心配でしたが、何とか内服させ経過をみました。状態が改善しないようならば、キニンという注射薬を使います。15分、30分、1時間と経つにつれ、目をぱっちりとかげ、話もできるようになり、2-3時間後は来院時と比べ、とても元気になりました。8時間後の内服、更にもう2日間の内服を念押しして帰宅させました。このように抗マラリア薬はとても効果があります。しかし、その投与が遅れると、亡くなることもあります。今年は、みなさまのご支援のおかげで、巡回診療後にコミュニティヘルスワーカーに十分量の抗マラリア薬を手渡すことができます。マラリアという治療できる病気で子供たちが亡くならないように、コミュニティヘルスワーカーもがんばっています。しばらく姿を見せなかったコミュニティヘルスワーカーが久しぶりに活動に参加してくれました。また、コミュニティのメンバーが何人も手伝ってくれました。うれしかったです。お金を渡すことはできませんが、彼らのがんばりには何らかの形で答えていきたいと思います。



スタッフ集合写真

・結膜炎の患者が多く、眼軟膏が足りなくなりました。皮膚疾患も多いです。おそらくきれいな水が手に入らないからだと思います。コミュニティの協力も得られるようになりましたし、井戸掘りを開始してもいいのではと感じました

・今回は、三重大の医学生1名、日本人医師1名、海外協力隊員でザンビアの南部で活動している看護師1名と医師1名が同行され、血圧・体温・体重測定、マラリア検査、診療に参加されました。ザンビアの医師免許がないと原則診療はできないのですが、診療に協力していただいている形で、私と共に診療していただきました。

・今、朝の10時ですが、水圧がとても弱くなり始めました。洗面器、バケツなどに汲み置きしています。みなさま、どうぞお元気でお過ごし下さい。

ザンビア活動報告2 (山元香代子先生から)

◎みなさま、いかがお過ごしでしょうか。九州地方の雨はひどかったようですが、被害のなかったことを祈っています。こちらはなぜか先週末から水が出るようになり、とても助かっています。10日、ルアノから11時過ぎに帰り、お湯が出てとてもうれしかったです。おそらく4月にザンビアに戻ってからはじめてだったと思います。今週の巡回診療の報告をします。

6月10日ルアノ

・患者数98名 マラリア24名 上気道炎(かぜ)45名 下痢4名 結膜炎2名 皮膚疾患8名 他
前回と比べて、患者数はあまり多くありませんでした。マラリア患者数も減ってきています。

・ムワンタヤと比べて、結膜炎、下痢、皮膚疾患の患者が少ないのは、井戸ができてきれいな水が手に入りやすくなったからかなと感じています。今週は年に2回実施される子供の健康週間で、予防接種を実施するためにヘルスセンタースタッフが一人同乗しました。ヘルスセンターにはこの活動のためにルアノまでの車の燃料代が出ているのですが、こうやって同乗することがよくあります。もちろんプロジェクトの車両に対して、燃料費は出してもらえません。

・33歳の男性が、熱があると言って受診しました。マラリア



タイヤ修理の様子

ア検査は陰性でしたが、眼球結膜が黄色く、強い貧血も認められました。肌は黒いのですが、その皮膚が黄

色みがかった黒色で、明らかな黄疸がありました。元々飲酒の量も多かったようですが、黄疸の原因ははっきりせず、ヘルスセンターに送って精査してもらおうと考え、夕方までに戻ってくるように説明し、本人も納得しました。しかし、診療が終わり待っていても戻ってはきません。そのまま放っておくわけにはいきませんので、彼の家は近くだからということで、迎えに行くことにしました。コミュニティヘルスワーカーに道案内を頼み、近所の人に尋ねるたびに、クソゴロ このむこうと言われますが、なかなかたどり着きません。1時間近くうろうろして、ようやく彼をみつけました。ルアノで言われる“近く”は、決して近くではないと思い知らされました。

・この日は、行きはヘルスセンターを退院した子供を連れてお母さんが同乗し、帰りはこの男性がいっしょでしたので、往復ともに後ろの座席は4人でぎゅうぎゅうでした。腰が痛く、道中がとても長く感じられましたが、運転手が2人になり車の整備に時間がかけられるようになったおかげで、道中、車の故障もなく、ありがたいことだと思いました。

来週はニャンカンガですが、その前にムワンタヤに出かけ、井戸掘り予定の現場を見てこようと計画しています。みなさま、どうぞお元気でお過ごし下さい。

ザンビア活動報告（徳島大学医学部卒 鈴記好博先生から）

山元先生のモバイルクリニックに同行させていただいて

・2015.5.13 にかねてより拝見させていただきたくかった山元先生のモバイルクリニックに参加させていただくことができました。しかも見学だけでなく、診察もご一緒にさせていただき、たいへんいい経験となりました。マラリアの患者様がほんとうに多く、しかも非常に多彩な症状であることに驚かされました。

・また、モバイルクリニックを行うにあたり、その準備や終わってからのカルテチェックなどのクリニック当日以外の日の大変なお仕事の上にモバイルクリニックが行われているということも見せていただき、自分のことでは、実際に診察をさせていただいて、日本では普通にできていることが、慣れない環境の中で仕事をするというだけでできなくなってしまっていたこと、そして今後自分もザンビアでの診療行為を行うにあたり、これまでの知識だけでは全く歯が立たず、多くのものを勉強し学ばねばならないことを痛感させていただきました。本当にありがとうございました。



診察風景

賛助会費の納入について 認定NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は1月から12月です。どうぞ賛助会費(個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上)のご協力をよろしくお願い致します。入金を確認しました際には、日高からその旨のメールを差し上げています。

すでにご案内の通り、賛助会費についても寄附と同様、税控除の対象となります。後日、寄附受領証明書をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。

また、郵ちょ銀行以外の銀行からWEBで振り込まれる際は、できましたら付加情報として住所、氏名(漢字)を加えていただきますと対応しやすい(何もしないとカタカナの氏名のみ)です。よろしくお願い致します。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351
加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351
加入者名： NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角)：トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ (注：ヲ→オ)
今後ともどうぞご支援のほどよろしくお願い致します